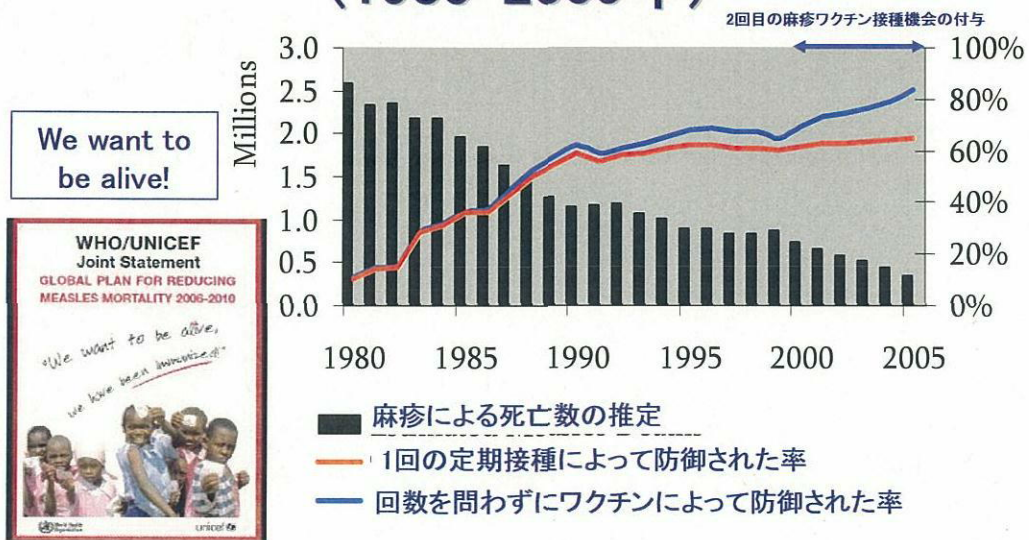


世界および日本の麻疹*の現状、 そしてわが国が目指すゴール

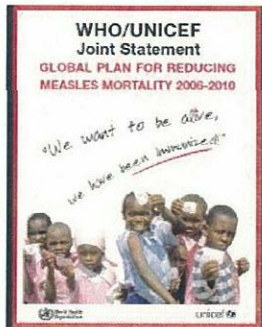
国立感染症研究所感染症情報センター
麻疹チーム

*麻疹＝麻疹＝はしか

世界における麻疹死亡の推定 (1980-2005年)

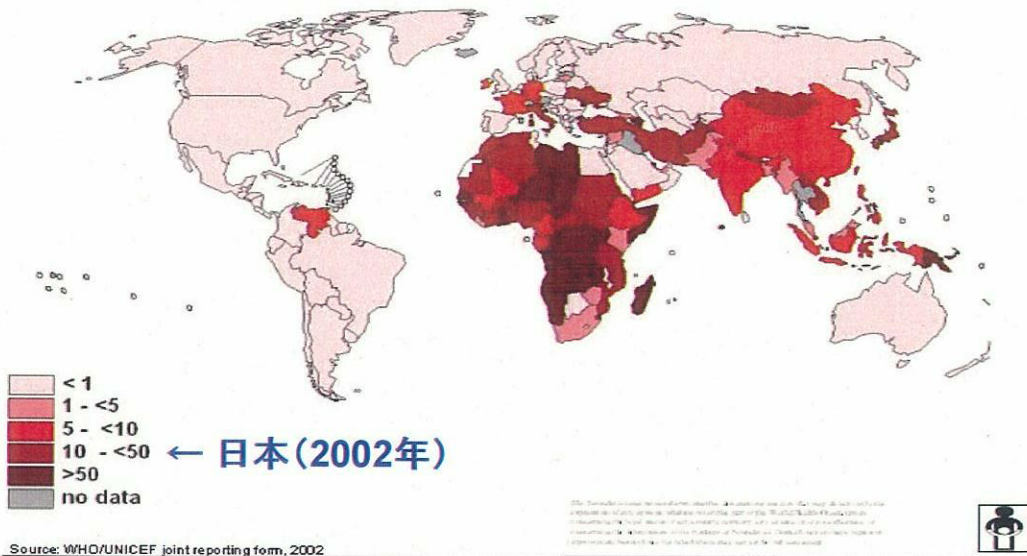


We want to be alive!



WHO/UNICEFスライドを一部改変

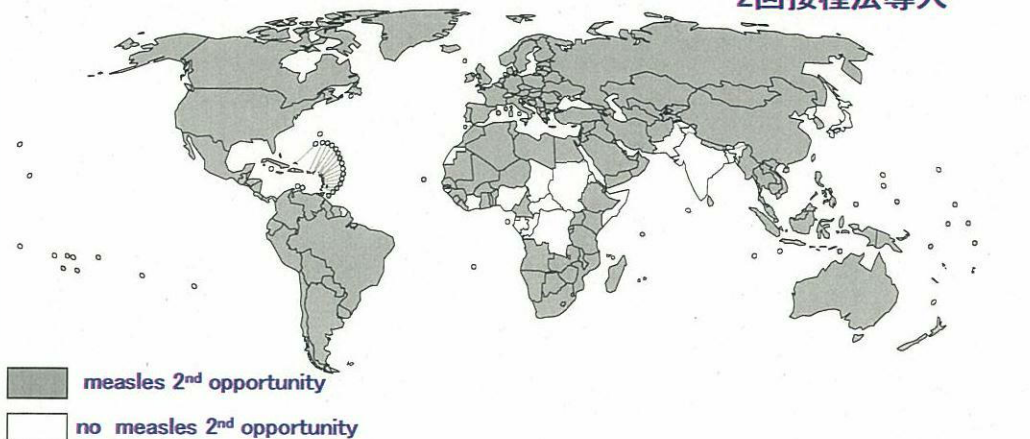
10万人あたりの麻疹患者報告数(2002年)



麻疹ワクチン2回接種機会を導入した国(2005年)

2005年: 171のWHO加盟国 (89%)

日本:
平成18年4月(2006)年
2回接種法導入



米国における輸入麻疹患者数 1996-2003* CDC

- アメリカ合衆国に輸入された麻疹患者総数- 290 人
 - 日本 - 44 人 → 2005~2006年 0 人
 - ドイツ - 24 人
 - 中国 - 22 人
 - フィリピン - 17 人
 - イタリア - 16 人
 - インド - 15 人
 - パキスタン - 14 人
 - ギリシャ、韓国 - 各10 人
 - その他 - 118 人

*2003 Provisional data

日本からの麻疹輸出例 2007年

2007年 アメリカ合衆国
 カナダ
 オーストラリア
 スイス
 台湾

一般旅行(若者)、修学旅行(高校生)、
スポーツ国際大会(小学生)

asahi.com

サイトマップ 検索 使い方 WEB サイト内 辞書 地図

住まい 読書・雑誌 BOOK 食 健康 愛車 教育 デジタル トラベル 囲碁 将棋 社説 コラム ショッピング be どれく

食に関する旬の情報が満載 asahi.com 食

ホーム 社会 スポーツ ビジネス 暮らし 政治 国際 文化・芸能 サイエンス ENGLISH マイタウン 天気 交通情報 アスパラクラブ

現在位置: asahi.com > ニュース特集 > はしか流行 > 記事

文字サイズの変更 小 中 大

修学旅行生、カナダで「隔離」 はしか流行、海外に波紋

2007年05月30日09時57分

カナダを修学旅行で訪ねた東京都内の高校2年生の一行で、生徒の1人がはしかのような症状を訴え、病院で治療と検査を受けていることが29日、わかった。残りの生徒らは滞在先のホテルに一時「隔離」され、感染検査を受けたという。カナダでははしかの発生率は非常に低く、現地メディアも今回の事態を報道。はしかの流行が海外でも波紋を呼んでいる。

現地の保健当局と学校関係者によると、一行が24日にカナダ入りした後、女子生徒の1人が発熱と発疹の症状を示し、バンクーバーの病院に入院した。残りの生徒129人と教員、添乗員らは移動先のバンフのホテルで保健当局から待機するよう指示を受け、血液検査を受けた。女子生徒の診断結果はまだ出ていないが、残りの生徒らには感染者がいなかったことがわかり、29日は観光などの日程をこなしたという。

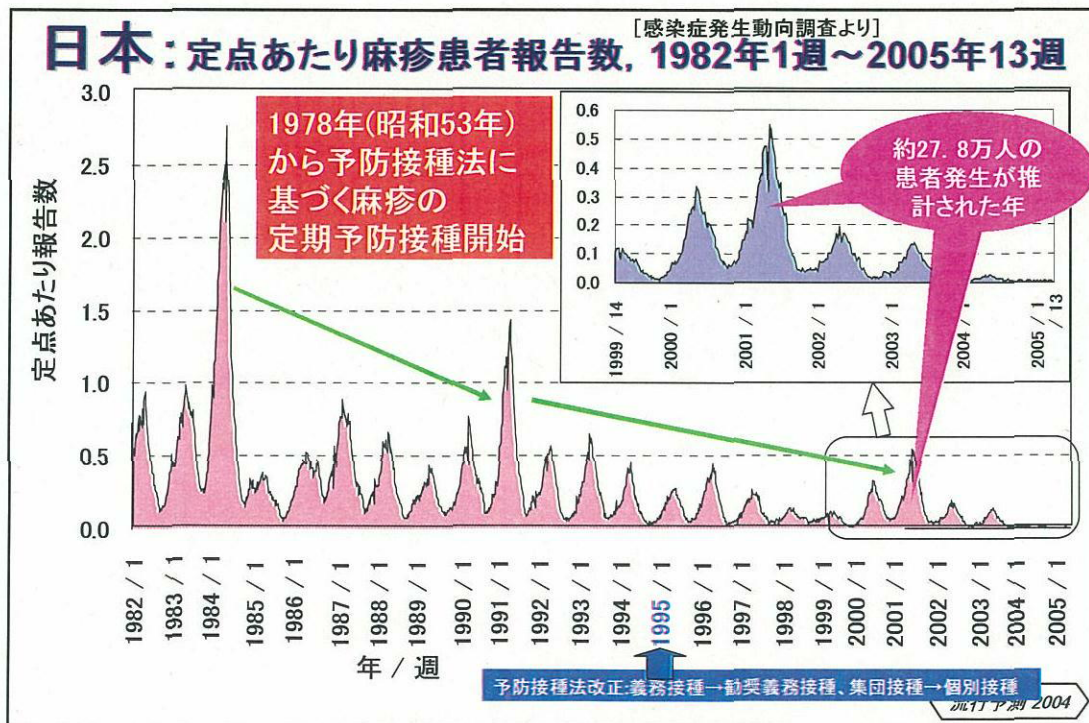
バンクーバーの保健当局の広報担当者は「カナダでは、はしかの感染率は非常に低い。日本では流行していると聞くと、私たちにとって今回は異例の事態だ」と話した。

Asahi.comより

第2の人生のテーマは「笑い」
真打ちが直撃手ほどき！ 日本人の笑いのベース「古典落語」を習う。

70周年特別サイトはこちら▶▶▶

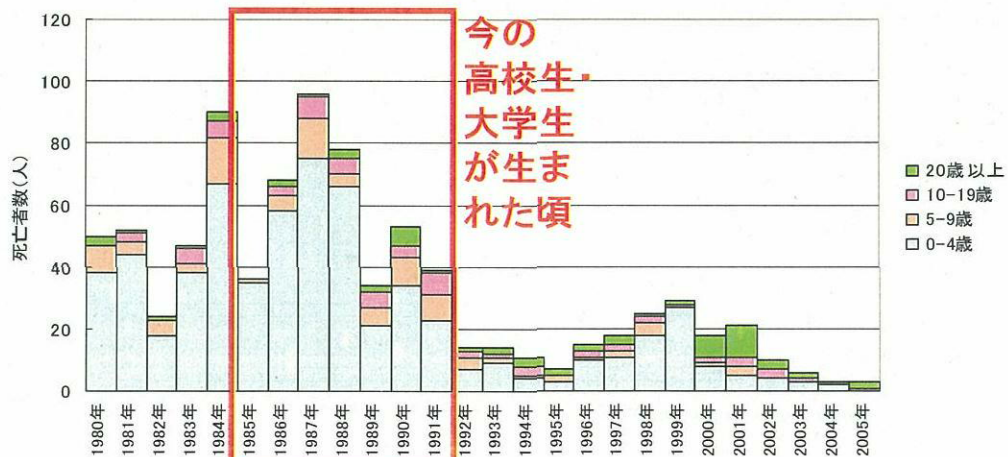
高校野球 第89回 全国高校野球選手権大会



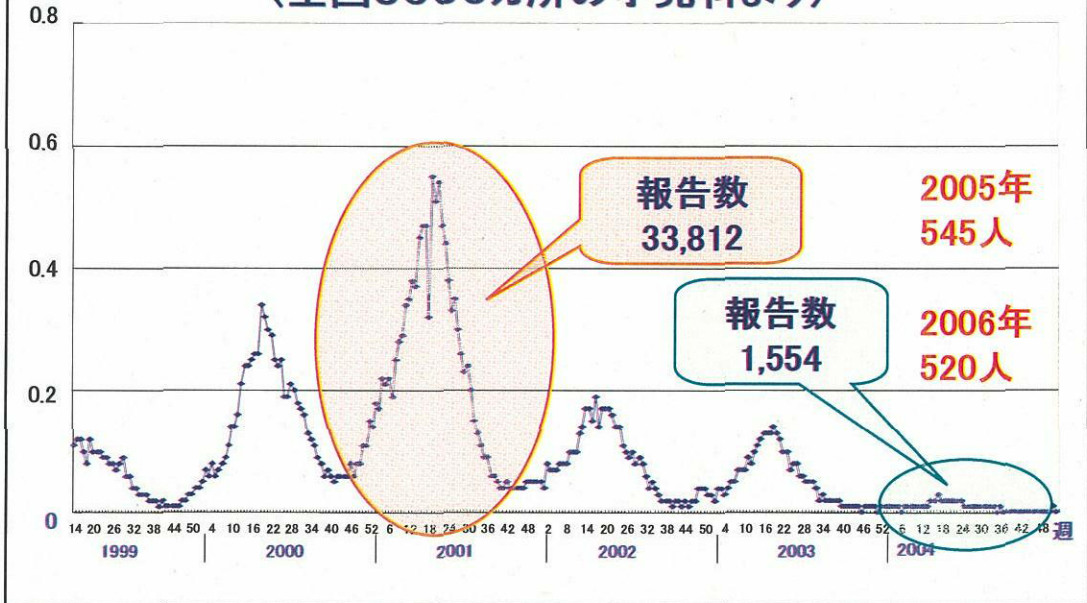
沖縄県の麻疹死亡例(9例)1998-2001年

年 齢	性別	接種歴	死亡時期	管内別
1 0才児 (11ヶ月)	女	無	平成11年3月 (肺炎-脳炎)	石川
2 0才児(11ヶ月)	男	無	平成11年4月 (重症肺炎)	コザ
3 1才児 (12ヶ月)	男	無	平成11年4月 (間質性肺炎)	石川
4 1才児 (14ヶ月)	男	無	平成10年10月 (間質性肺炎)	コザ
5 2才児 (32ヶ月)	女	無	平成10年11月 (間質性肺炎)	コザ
6 3才児 (44ヶ月)	男	無	(肺炎-脳炎)	石川
7 1才児 (13ヶ月)	男	無	(重症肺炎)	石川
8 0才児 (9ヶ月)	女	無	(重症肺炎)	中央
9 0才児 (9ヶ月)	女	無	平成13年4月 (間質性肺炎)	南部

麻疹(はしか)が死因となった死亡者数 1980-2005(人口動態統計より)



麻疹(はしか) 全国の報告数推移
(全国3000カ所の小児科より)



2006年4月1日から、

日本小児科医会 感染症センター IDSC

麻疹風疹混合ワクチンを



2006年6月2日から、

小学校入学準備に
2回目の麻疹・風疹ワクチンを!



2007年春の学生を中心とした麻疹流行

はしかによる大学の休校	はしかが広がる影響	早大5万5000人休眠
<p>はしかによる大学の休校が相次ぎ、学生街が静まり返る。春学期の授業が中止され、多くの学生が自宅にこもる状況となっている。</p>	<p>はしかが大流行の兆しを見せている。多くの学校で休校措置が取られ、授業が中断されている。</p>	<p>早稲田大学で5万5000人の学生が休眠する事態が発生した。これは、はしかの感染拡大による措置である。</p>

早大5万5000人休眠
運動部特例措置
早慶戦どうなる

はしかが広がる影響
早稲田大、休校措置
授業が中止

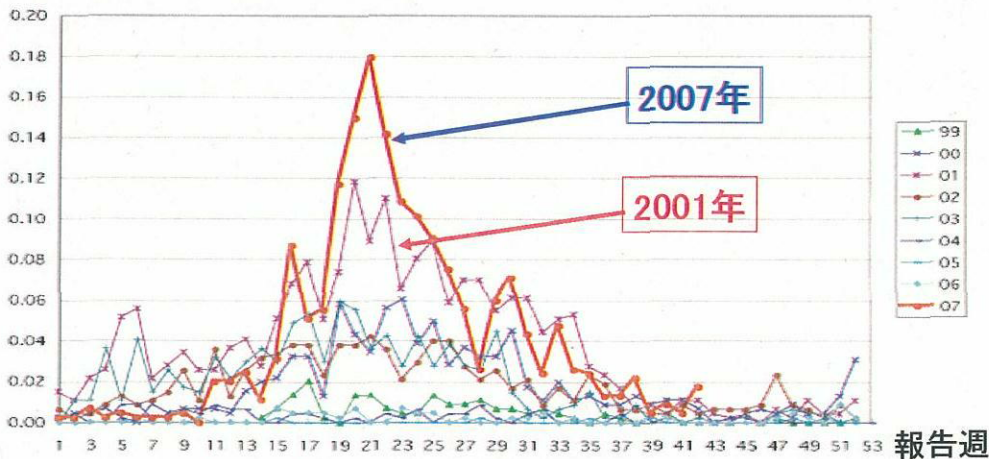
はしか大流行の兆し
はしか休校・閉鎖103校
4月以降

成人患者も急増
麻疹の感染拡大

はしか猛威揺れる学校
延期も
各種

はしか学生44人感染
文理学部

成人麻疹(15歳以上):基幹定点(450)1カ所あたり報告数
感染症発生動向調査より
2006年3月31日以前は、18歳以上



20歳前後の若者での発生が目立った

2007年4月1日～7月21日までに発生した学校等での
麻疹、成人麻疹による休校、学年閉鎖、学級閉鎖数
(厚生労働省結核感染症課調査)

	休校(園)数	学年閉鎖数	学級閉鎖数
幼稚園・保育所	2(千葉、横浜が各1)	0	0
小学校	18(千葉が最多で9)	6	6
中学校	27(東京が最多で8)	20	6
高等学校	73(東京が最多で16)	14	23
特別支援学校	3(東京2、奈良が1)	0	0
大学	83(東京が最多で32)	3	4
短期大学	8(青森、福島が各2)	0	0
高等専門学校	4(青森、宮城、大阪、愛媛)	0	0
その他	45(東京が最多で19)	2	16
計	263	45	55

麻疹は小児科の病気ではなかった！

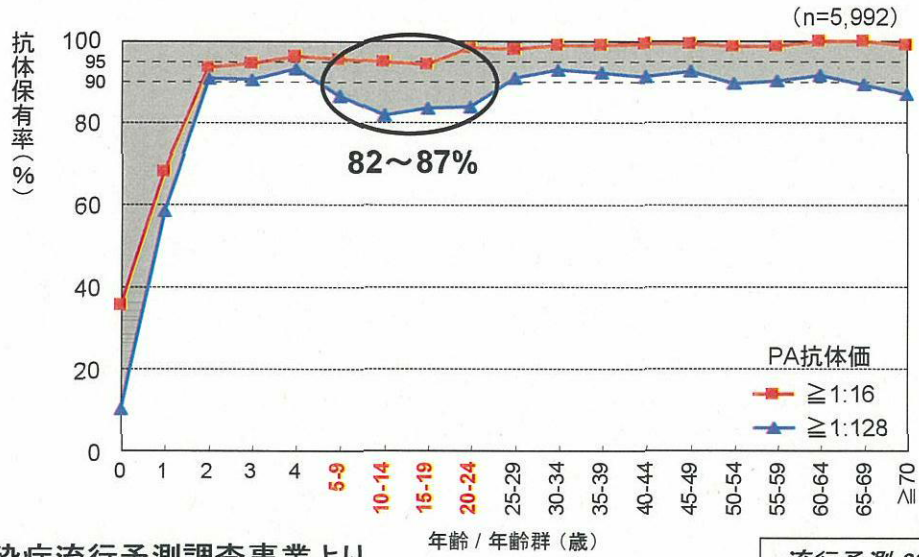
麻疹による脳炎の患者報告数

2004年3月1日～2007年9月30日

年	診断週	推定感染地	性	年齢	
2004	16	新潟県	女	28歳	死亡
2006	25	千葉県	男	12歳	
2007 (9例)	13	埼玉県	女	13歳	
	16	東京都	男	28歳	
	20	埼玉県	女	26歳	
	21	大阪府	男	26歳	
	23	神奈川県	男	21歳	
	25	新潟県	男	16歳	
	31	東京都	男	18歳	
	32	新潟県	男	16歳	
	37	大阪府	男	27歳	

致死率は約15%で、治っても20～40%に中枢神経系の後遺症(精神発達遅滞、痙攣、行動異常、神経聾、片麻痺、対麻痺)を残し、非常に重篤な病気です。

麻疹に対する免疫を持っている人の割合, 2006年

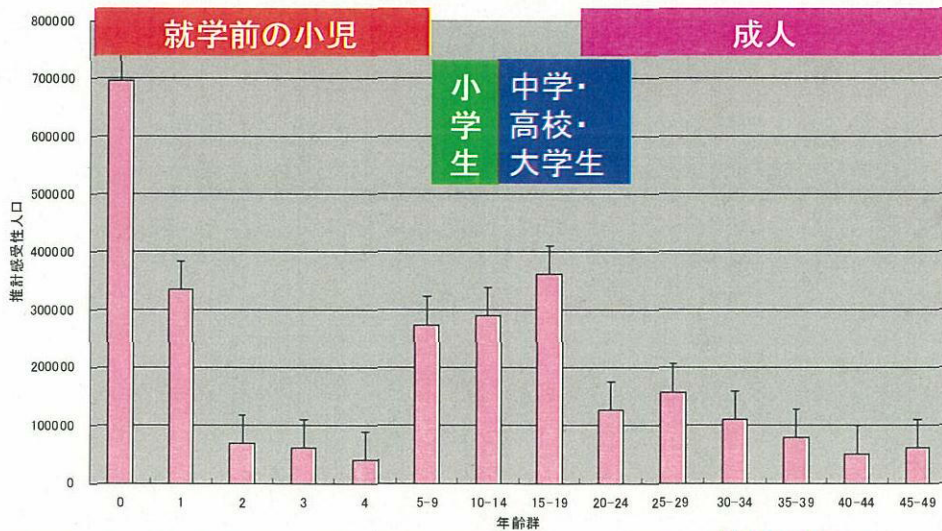


感染症流行予測調査事業より

流行予測 2006

2006年度の調査で麻疹感受性人口を推計すると...

2006年度麻疹推計感受性人口(感染症流行予測調査事業より)

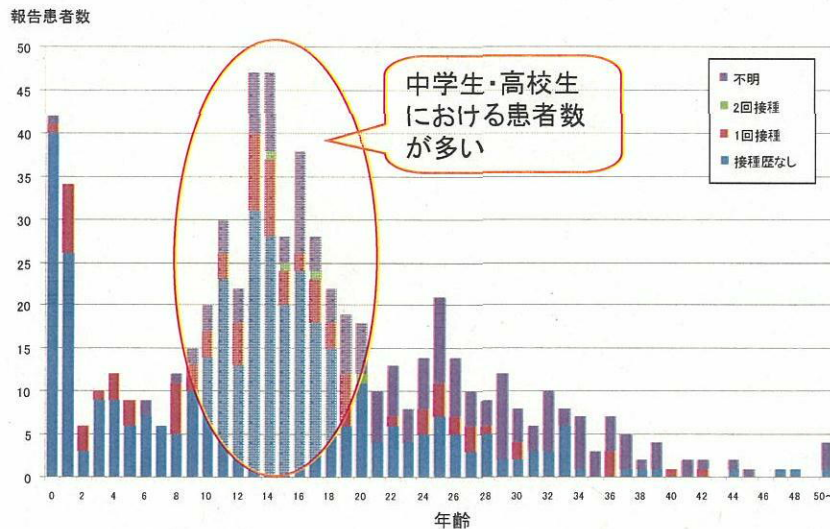


2006年度感染症流行予測調査事業結果より推計: 約270万人

国立感染症研究所感染症情報センター: 多屋馨子先生スライドを一部改変

2008年1月の予防接種歴別麻疹患者の年齢分布

感染症発生動向調査 2008年第1週～第4週(n=659:うち検査診断例が181例)



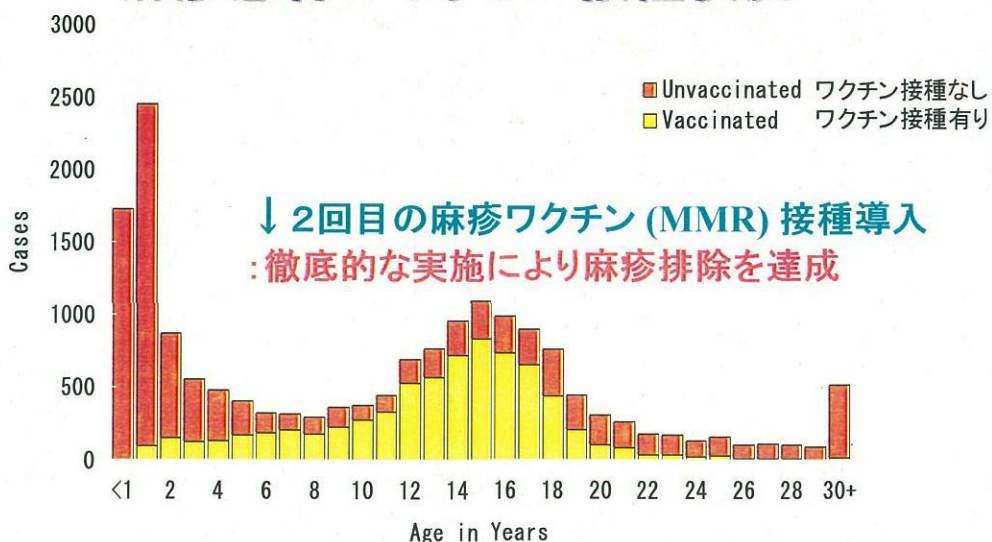
なぜ今、若者にはしかが流行？

1. ワクチンを受けなかった
はしかにもかからず大きくなった(10%)
2. ワクチンを受けたが免疫が出来なかった(2-3%)
3. ワクチンを受けて免疫は出来たが、徐々に免疫の記憶が弱くなって効果が下がってきた(10-20%)
4. 以上の人たちが集団でいるところに「はしか(=麻疹)ウイルス」が入り込んだ
5. 行動半径が広く、流行が広がった(関東、沖縄、九州、海外)

今回の麻疹流行の問題点

- ・ 個人の問題
 - 一人一人がかかっては困る
(麻疹は重い、死に至ることもある)
- ・ 国内社会的な問題
 - 集団で流行すると、社会的影響が大きい
 - 軽い麻疹でも感染源となる(流行が広がる、続く)
 - 特に死亡率の高い乳幼児への麻疹伝播が大きな懸念
- ・ 国際的な問題
 - 麻疹がまだ日本で...?? : 日本から輸出されるか...
 - 先進国: 迷惑!
 - 発展途上国: 流行と小児の死亡の原因に..
 - 日本が本気で麻疹対策をとるか.....

麻疹患者数, アメリカ合衆国, 1985-88年, 麻疹患者のワクチン接種状況



日本：2006年度の第二期の接種率は約80%と十分ではありませんでした。→5人に1人は接種していない



小学校入学準備に2回目の麻疹・風疹ワクチンを受けましょう。

麻疹・風疹ワクチン なぜ2回接種なの？

麻疹・風疹ワクチンを2回接種することには、以下の3つの理由があります。

- 理由その1** 1回の接種で免疫がつかなかった子どもたち（数%存在すると考えられます）に**追加**を与えます。
ポスターのダウンロードはこちら（A3印刷可、2.9MB）
- 理由その2** 1回の接種で免疫がついたにもかかわらず、その後の時間の経過とともにその免疫が減衰した子どもたちに再び刺激を与え、免疫を**強化**なものとします。
- 理由その3** 1回目に接種しそびれた子どもたちに**もう一度**接種のチャンスを与えます。

持ち物に名前を、母子手帳にワクチンを！

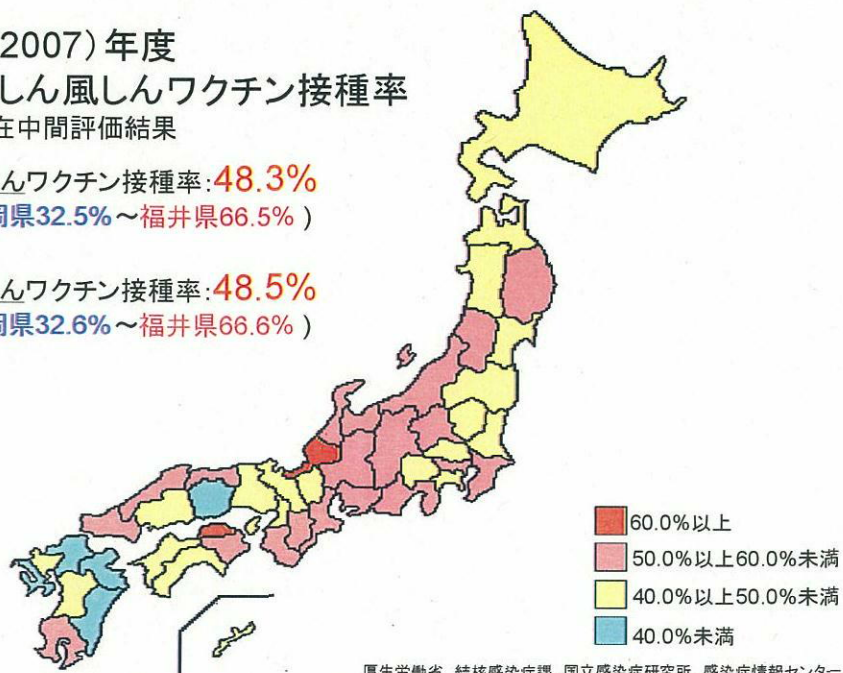
国立感染症研究所 感染症情報センター IDSC
http://idsc.niid.go.jp/idsc/index.html

(IDSC 2007/4/23 掲載)

平成19(2007)年度
第2期麻疹風疹ワクチン接種率
9月30日現在中間評価結果

第2期 麻疹ワクチン接種率: **48.3%**
(福岡県32.5%～福井県66.5%)

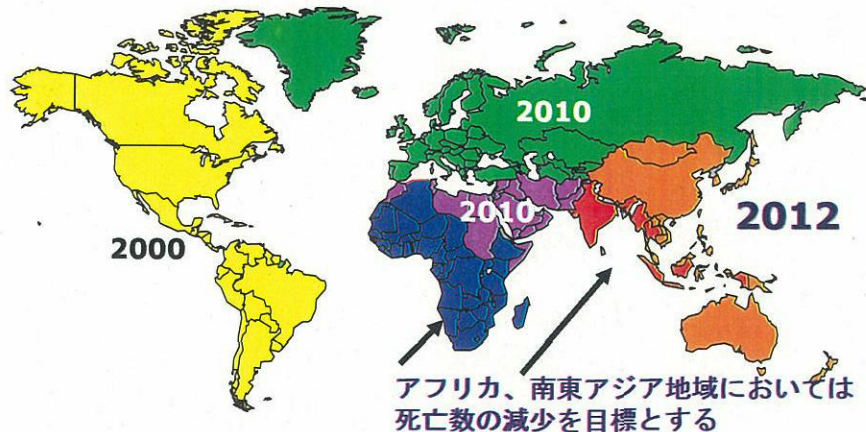
第2期 風疹ワクチン接種率: **48.5%**
(福岡県32.6%～福井県66.6%)



国際的な麻疹排除*(elimination)目標設定

*麻疹ウイルスの地域循環が無い状態

Americas, Europe, E. Mediterranean, W. Pacific have elimination goals



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its boundaries, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted lines on maps represent approximate borders lines for which there may not yet be full agreement.



World Health Organization WHO 2006. All rights reserved.

WHO/UNICEFスライドを一部改変



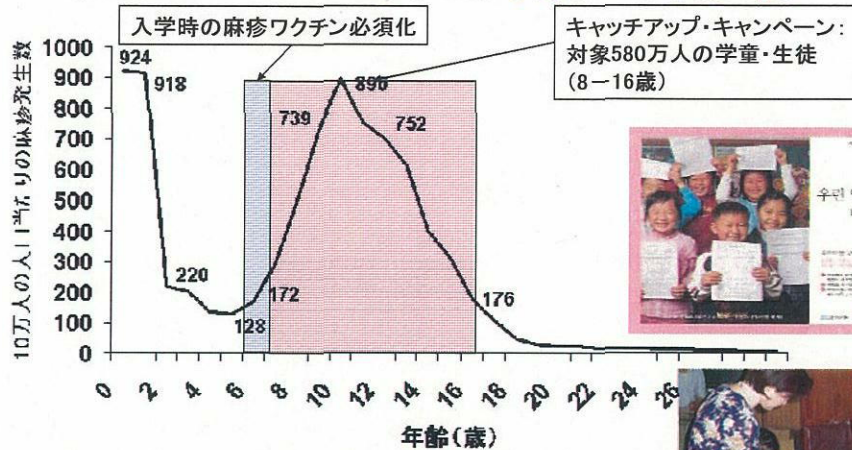
WHO西太平洋地域における麻疹排除の定義

【概要】

WHO西太平洋地域の指標では、

- ・ 輸入例を除き麻疹確定例が1年間に人口100万人当たり1例未満であること
- ・ 2回の麻疹含有ワクチン接種率がそれぞれ95%以上であること
- ・ 全数報告などの優れたサーベイランスが実施されていること
- ・ 輸入例に続く集団発生が小規模であること、等である

韓国における麻疹患者の年齢別発生数 (2000-2001年)と対策の対象者



入学時の麻疹ワクチン必須化



- 戦略: 1) キャッチアップ・キャンペーン(→対象者の97%を達成)
 と結果 2) 入学時の麻疹ワクチン必須化
 3) 二回目の定期麻疹ワクチン接種率の95%以上の達成
 (→2001年8月:99%、以降2006年まで95%以上達成)



韓国の意気込み!

The Minister of Health received the first MR shot, Seoul, May 21
 Source: Takahashi (IDSC)

2006年における韓国の麻疹排除指標達成

WHO(WPRO)による指標

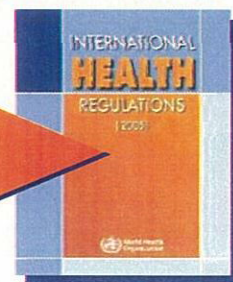
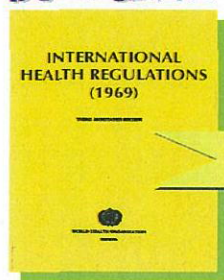
韓国(2006年5月)の達成状況

- 低い麻疹の発生
 - 100万人当たり1例以下の確定例の報告 (輸入例を除く)
 - 100万人当たり0.9例 (検査確定例、輸入例は除く)
- 質の高いサーベイランス
 - 10万人当たり1人以上(年)の疑い例報告が80%以上の地域よりある
 - 10万人当たり0.32例(全国) 6.7%(16県中1県)
 - 疑い例の80%以上でIgM検出実施
 - 95.5%(63/66例)
 - 各確定例におけるウイルス分離
 - 8株のウイルス分離(H1)
- 麻疹に対して95%以上の免疫能を有
 - >95%麻疹含有ワクチン2回接種率
 - 99%以上
 - 輸入例に端を発するアウトブレイクが3ヶ月以下の期間で100例以下であること
 - 3例(輸入例より)



VPD Control & National Immunization Program

2007年6月:感染症などに対する国際的な監視の強化→改訂国際保健規則*の実施



- **黄熱、コレラ、ペストのみへの対応からあらゆる公衆衛生上の脅威への対応へ**
 - Public Health Emergency of International Concern (PHEIC): “国際的な懸念を有する公衆衛生上の緊急事態”
- 予め決まった対応から内容に応じた対応へ
- 国境での管理という観点に含め原因の封じ込めへ

WHOスライドを一部改変

内容：国際的な感染症の発生・移動への警戒の強化

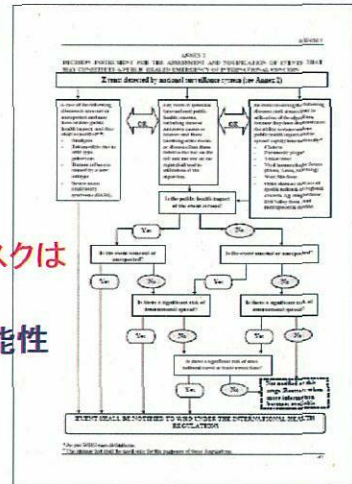
Public Health Emergency of International Concernの4つの指標

- 事例の公衆衛生上のインパクトは重大か？
- 事例は異常であり予期せぬものか？
- 国際的に伝播する著明なリスクはあるか？
- 国際的な旅行や貿易の制限に至る著明なリスクはあるか？

→麻しんの国際的な伝播は上記に該当する可能性

各国の以下を強化する機会でもある

- ・ 政治的責任
- ・ 技術的な活動



WHOスライドを一部改変

2012年の日本からの麻しん排除を目指して

【目標】

- ・ 輸入例を除き麻疹確定例が1年間に人口100万人当たり1例未満となること
- ・ 2回の麻しん含有ワクチン接種率がそれぞれ95%以上であること
- ・ 全数サーベイランスなどが優れたレベルで維持されること
- ・ 輸入例に続く集団発生が小規模で抑えられること

“だから自分もみんなも、はしかに
ならない、はしかにさせない”

“日本の子どもも若者もはしかにならない、
世界の人々もはしかにさせない”